

# 佐渡税務署長賞

## 支えられ、支えていく税金

新潟県立佐渡総合高等学校 2年 山岸 朱莉

私は税金について知識がなく、興味を持つことがなかったです。

私が税金について知る機会が出来たのは、高校生になりアルバイトを始めたことがきっかけです。初めてお給料を頂いた時に給料明細も貰いました。給料明細には所得税、住民税と書かれている欄がありました。私たち高校生が納めている税金はだいたい消費税のみの人が多いと思います。しかしアルバイトをしている人の中で年間の給与の合計103万円を超えると所得税が課税されます。同じ高校生でも納めている税金が違うのはなぜか、私たちが納めている税金は何に使われているのか興味を持ちました。

日本の平均年収は2023年で443万円となっています。平均年収だと約10万円の所得税を納めることとなります。年収1000万円だと約85万円の所得税を納めることになるので、平均年収と比べると8.5倍も違うことが分かります。これは、同じ税金負担力とする人には同じ水準の税を負担すべきという考え方です。簡単に言うと年収500万円の人が二人いるとすれば、その二人の租税額は同等であるべきということです。所得税は水平的公平となっていることが分かりました。

税金が何に使われているかだいたいの方は知っていると思います。主に使われているのは医療、介護、福祉、教育などの公共サービスです。税金をいらないと考える人もいますが、税金がなくなってしまうらとても大変だと思います。道路や道が壊れていても直すことが出来ない。教育費の負担が重くなってしまう、お年寄りや体の不自由な人などの施設や保育所の設置などが十分に行われず困った時に頼ることが出来ないなど、生活が困難になると考えられます。

私は実際に税金に助けられたと思うことがあります。それは医療費です。私は喘息を持っていて小さい頃によく病院に通っていました。喘息がひどく入院することも何度かありましたが医療費の自己負担が少なかったのが助かりました。

税金について良い印象がなかったけど、作文を書くにあたって沢山のことを調べ税金の大切さを知ることができました。私たちは税金があるから今のように当たり前生活をすることが出来るのだと思います。これから税金に支えられ、税金を支えていきたいと思いました。